

県外派遣審判員報告書

作成日 平成30年 8月 11日

| | | | |
|--|---------------------|-------------------------------|---------------------|
| 大会名 | 全国高等学校バスケットボール選手権大会 | 会場 | パークアリーナ小牧 |
| 期間 | 平成30年8月2日(木)～3日(金) | 報告者 | 山中 萌衣 |
| スケジュール | | | |
| 期日 | 内容 | | 場所 |
| 7月29日(日)～31日(火) | 審判研修会 | | パークアリーナ小牧 他 |
| 8月2日(木) | 14:30～ | 女子1回戦 市立川越(埼玉) 対 就実(岡山) | パークアリーナ小牧 |
| 8月3日(金) | 10:00～ | 女子2回戦 札幌山の手(北海道) 対 京都精華学園(京都) | パークアリーナ小牧 |
| | | | |
| レクチャー・審判会議の内容 | | | |
| 審判研修会の内容については、別紙に記載しています。 | | | |
| 実技 | 割り当て | 1回戦 市立川越 対 就実 | 主(副) 相手 笠島氏(東京都 A級) |
| <p>○ゲーム前(プレカンファレンス)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2POのメカニクスの確認 ・ハイポスト付近のshotに対しての見方 ・エリア3にボールがあるときの見方(分担) ・リバウンド時、飛ぶ前・飛んでいるとき・着地後のよせに対する見方(小さい選手が足元に入ってくるなど) <p>○ゲームの実際</p> <p>ビッグインパクトへの判定で、同じケースで相手レフリーが取り上げたものに関して同じように判定できなかった。前半だったため、整理しておく必要があった。ベンチ管理について、TO後の再開で一方のチームが出てくるのが遅かった。声かけはしていたが改善されなかったときにwarning等の処置が必要だった。</p> <p>○ゲーム後(ポストカンファレンス) 主任 青木 俊博 氏(愛知県 S級)</p> <p>2人がdualに見ているところがあったため、もっとプライマリーの意識を持つことが必要である。リードがスイッチサイドした時のトレールの視野の取り方などを工夫すればよ。エリア3にボールがあるとき、トレールが足を使って見に行くことはいいことであった。しかし、ボールが振られたときに遅れてしまうケースがあったため、ディフェンスの間合いなどを見て、ワイドに見れる位置を探すことで改善されると思う。ハイポスト付近でカッティングプレーに対してダブルコールで笛が鳴った時、リードがレポートに行ったが、プライマリーアングルはトレールであったため、取れ一るがレポートの行ったほうがよかった。このように、どちらがレポートに行くかなど、しっかりとアイコンタクトをとってすると良い。ベンチ管理に関して、TO後に出てくるのが遅いことが気になった。声かけはしていたが、それでも改善されないのなら、コーチに協力をお願いするように話し、それからwarningなどの処置をするべきだった。それは、一方のチームは守っているのに、守らないチームがあると公平にならないからであり、それを公平にするのも審判の役目でもある。</p> | | | |
| 実技 | 割り当て | 2回戦 札幌山の手 対 京都精華学園 | 主(副) 相手 中江氏(石川 S級) |
| <p>○ゲーム前(プレカンファレンス)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨日の反省から、エリア3にボールがあるときに、状況によってだが深追いせずにボールが振られた時に対応できる位置取りについて。 ・時計の管理 <p>○ゲームの実際</p> <p>序盤からとても展開が早く、とても面白い試合であった。試合の序盤に、体のよせ(先にDefenseが位置を占めたのか、遅れてコースに入ったのか)に関して、判定を決断することができていなかった。そのようなプレーはトレールから離れていくプレーに対して多く、もっと長く最後まで見る必要があった。公平性という観点で、同じようなプレーは同じような判定をするという重要さに改めて気付かされたゲームでもあった。</p> <p>○ゲーム後(ポストカンファレンス) 主任 原田 拓朗 氏(鹿児島県 A級)</p> <p>トレールから始まるドライブについてはトレールが責任持って判定することが必要であった。2on2に対するトレールからの見方として、早いポジションアジャストとボールが展開されたら元の位置に戻るなどの、中江氏の位置取りが勉強になった。</p> | | | |
| 全体を通しての感想 | | | |
| <p>インターハイに初めて参加させていただき、研修会からとても勉強することが多くあった。今大会を通して、決断力のなさやプライマリーの意識をもっともたないといけないことを感じた。2試合通してビッグインパクトのケースや同じようなケースがあった時に、判定できないことが多く、準備・予測の足りなさを痛感した。どんな時でも起こることなので、そのことを頭に入れておく必要がある。プライマリーについては、2POでも3PO自分のプライマリーは確実に判定すること、エリアだけでなくアングルに関してもプライマリーであれば判定する。そのためには、メカニクスの理解をすることと実践を積み重ねていくことの重要性を感じた。</p> <p>今大会では、研修会も含め、新しい情報を得たり、再確認する必要があることが多くあった。これらを自分のものにするのと同時に、県内の審判員に伝えていかなければいけないという責任も感じた大会でもあった。</p> <p>最後に、大変お世話になりました、愛知県高体連バスケットボール専門部の皆様をはじめ愛知県審判委員会の皆様、そして、今回の派遣にご配慮いただきました原田審判委員長をはじめ鹿児島県審判委員会の皆様にお礼を申し上げます。ありがとうございました。</p> | | | |